

## 分子標的薬について No. 3

### 大腸がん治療

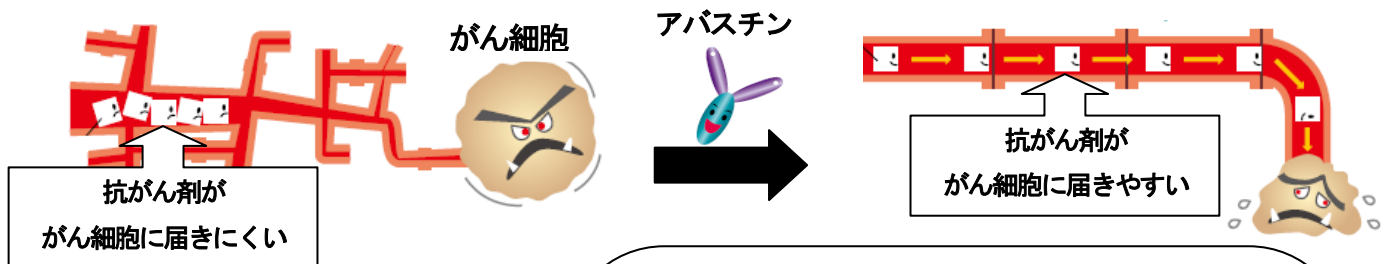
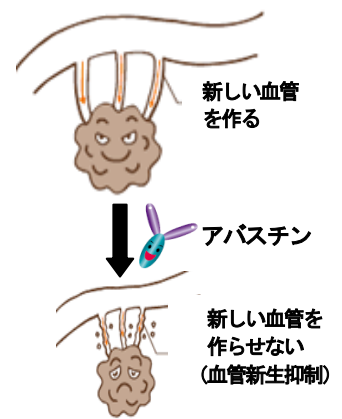
#### ★ アバスチン（ベバシズマブ）

アバスチンは、がん細胞が分泌する血管内皮増殖因子（VEGF）と呼ばれるタンパク質を標的として作用します。

VEGFは、がん細胞が増殖するために必要な新しい血管を作る作用を持っています。アバスチンが作用することで、がん細胞に新しい血管ができなくなる（血管新生を抑制する）ため、栄養や酸素が補給されなくなりがんの成長が妨げられます。（兵糧攻め）

また、がんが作り出した血管は異常な形をしているため、投与された抗がん剤が、がんまで届きにくくなっています。アバスチンには、これらの血管を整備して、抗がん剤をがん細胞まで届きやすくする作用もあります。

➡ 他の抗がん剤と一緒に使用します。

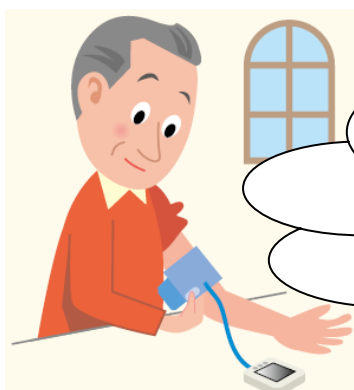


使用方法は・・・？

2～3週間に1回、初回は90分かけて点滴します。  
なお、アレルギー反応がなければ、2回目は60分  
3回目以降は30分かけて点滴します。

起こりやすい副作用は・・・？

血圧が高くなる・頭痛・吐き気、鼻などからの出血が起こることがあります。



血圧が高くなれば、血圧を下げる飲み薬（降圧薬）による治療を行います。

※早く症状に気付くためにも、自宅で血圧測定を行います。

安静時に繰り返し測定しても血圧が高い場合は、病院に連絡しましょう。

## ★ アービタックス（セツキシマブ）

アービタックスは、大腸がん細胞の表面にある EGFR と呼ばれるタンパク質を標的として作用します。

EGFR は、がん細胞が増殖するのに必要な信号を伝える働きをしているため、アービタックスが作用することにより信号が伝わらなくなり、がん細胞の増殖が抑えられます。

KRAS（ケーラス）遺伝子を検査して、変異がない人に使うことができます。

使用方法は・・・？

1週間に1回、初回は2時間かけて点滴します。  
なお、アレルギー反応がなければ2回目以降は1時間かけて点滴します。

起こりやすい副作用は・・・？

アレルギー反応を予防するために、点滴30分前までに抗ヒスタミン薬を点滴します。

発熱・悪寒・かゆみ・発疹・息苦しい（アレルギー反応）、めまい等が起こることがあります。

ニキビのような発疹、皮膚の乾燥・ひび割れ、かゆみ、爪の周りの炎症、吐き気、下痢、疲労等の症状が現れることがあります。

## ★ ベクティビックス（パニツムマブ）

ベクティビックスは、アービタックスと同様に大腸がん細胞の表面にある EGFR と呼ばれるタンパク質を標的として作用します。

なお、ベクティビックスは他のモノクローナル抗体（薬剤部だより No. 9 参照）に比べて、アレルギー反応が起こりにくいといわれています。

使用方法は・・・？

2週間に1回、60～90分かけて点滴します。

起こりやすい副作用は・・・？

ニキビのような発疹、皮膚の乾燥・ひび割れ、かゆみ、爪の周りの炎症、疲労、口内炎等の症状が現れることがあります。



アービタックスやベクティビックスによる皮膚の症状を予防するために・・・

- ★ 皮膚を清潔に保ち、保湿剤を使って皮膚の乾燥を防ぎましょう。
- ★ 直射日光を避けましょう。

起こった後は、ステロイド剤や抗生剤で治療を行います。

